

# 緑の屋根の時計台



第7号 (1周年記念号) 平成18年8月20日発行

## おかげさまで 1周年を迎えました

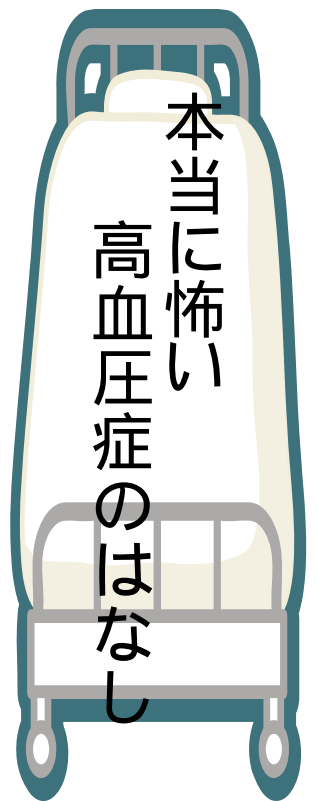
### 開業一周年のご挨拶

昨年八月九日に当地に開業し一年が過ぎました。徐々に地域の方々にとけ込んで職員一同うれしく思っています。クリニックでは病気に厳しく、患者に優しく、職場は楽しくをモットーに、患者様が安心と満足を得られる医療を提供するよう心掛けてまいりました。これから、今まで同様皆様のご指導ご鞭撻を賜ります様宜しくお願ひ申し上げます。

まず血圧について知っておくべき基本知識を整理しておきましょう。

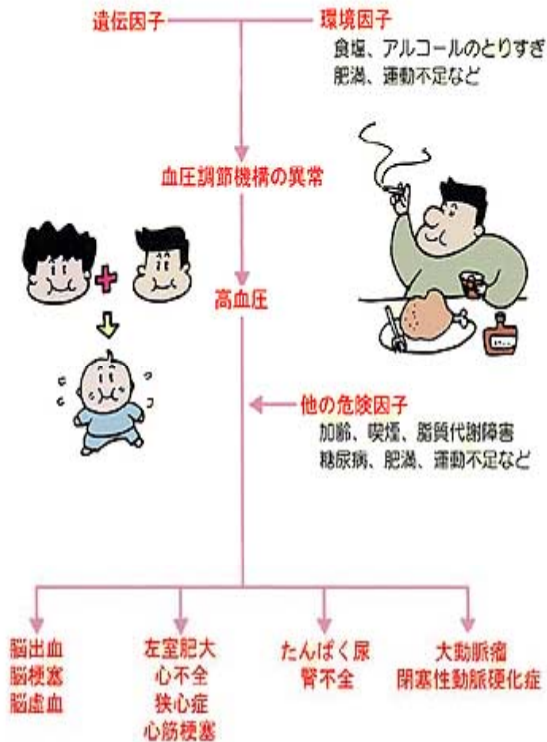
**高血圧とは？** 心臓から送り出された血液が、血管内で示す圧力、別の言い方をしますと、血管の壁を押す力が「血圧」で、これが一定以上に高い状態が「高血圧」です。心臓が収縮して血液を送り出されているときの最も高い血圧を「収縮期血圧」(上の血圧)、心臓に血液が戻ってきているときの最も低い血圧を「拡張期血圧」(下の血圧)と呼びます。「収縮期血圧が一四〇mmHg以上」か「拡張期血圧が九〇mmHg以上」の場合を高血圧としています。どちらか一方が上回っていても高血圧です。

では、なぜ「上の血圧」一四〇以上のときか「下の血圧」九〇以上のときが問題となるのでしょうか。住民を対象にした長年にわたる健康調査や生命保険の加入者調査などによって、血圧が高い人ほど心臓血管系の病気になるやすく、しかも死亡率



が高く、こうした傾向はとくに収縮期血圧が一四〇以上、拡張期血圧が九〇以上になると急に高まることがはつきりしました。さらに、収縮期血圧一四〇以上、拡張期血圧九〇以上の人では、薬で血圧を下げる降圧治療によって合併症や死亡率が下がることもわかりました。こうした状況は高齢の方でも同じこ

とです。だから、「一四〇/九〇以上」を高血圧にしているのです。厚生省の調査では約三千四百万人が該当しますから、人口のざっと四人に一人という国民病なのです。「たかが高血圧ぐらい」と考えがちですが、放置すると心臓や血管、さらに他の臓器にも障害をきたし、心臓の肥大(左室肥大)・たんぱく尿・脳卒中・心不全・冠動脈疾患(狭心症、心筋梗塞)・腎不全・大動脈瘤・動脈閉塞症などが起こりやすくなります。なにが高血圧をもたらした、その結果、どんな障害が起こるかをもとめてみま



# 熱性痙攣

# まずは様子を把握して

こどものひきつけのほとんどを占める熱性痙攣についてお話しします。これは珍しい病気ではなく、生後6ヶ月から6才までに発病し、10人から20人にひとりの割合で見られます。発症は1歳台が多く、また男児に多い傾向があります。特徴は名が示すように、38度以上の発熱に伴ってみられることです。熱が急に上昇する時に、よく起こり、痙攣が起こって初めて熱に気付くこともよくあります。持続は、長くても20分以内で、多くの場合は5分以内に止まり、あとはスヤスヤと何事もなかったかのように眠った状態になります。熱が出ることにより繰り返したりしますが、良性の病気と考えられています。ひきつけを起こしたらどうしたらよいでしょうか。お母さんが慌てても、痙攣は止まりません。まずは「落ち着いてよく見ること」が大切です。以下にお母さんに見てほしい事を書きます（状態を良く観察して先生に伝えてください）。

1. 体温を計り熱のあることを確認します。
2. 起こった時間を確認し、衣服をゆるめ、嘔吐しても大丈夫なように顔を横にします。痙攣の持続した時間を記録してください。
3. どんな形の痙攣なのか、観察しながら待ちます。痙攣の形には、ガクガクする以外に、硬直することもあり、唇や顔が紫色になることもよくみられます。舌を噛むのを心配して、割りばしなどを口に必要はありません。待っている時間というのは、長く感じるものですが、多くは5分以内に止まります。
4. 止まって、意識が戻り泣くようになれば、そのまま様子を見て構いません。

● **痙攣予防の薬について** 一般には発熱があったときに痙攣を予防する目的で使います（痙攣予防の坐薬：ダイアアップ）痙攣がおきてから使っても、すぐに止める効果はありませんが、また繰り返して起こることを抑える効果があります。

再発予防をする目安は、つぎのような症状があった時です。

- ① 15分以上続く痙攣があった。
- ② 過去に2回以上の痙攣があり、下の2項目以上を満たす。
  - ・発達の遅れや神経学的異常がある。
  - ・非典型的な熱性痙攣。
  - ・両親や兄弟に無熱性痙攣の既往がある。
  - ・1才未満の熱性痙攣。
  - ・親に熱性痙攣の既往がある。



③ 頻回の発作や短期間に発作を繰り返す（半年で3回、1年で4回以上）。  
上の①～③に当てはまることは少なく、38℃以上で心配なら使うことが多いようです。予防治療は最後の痙攣から2年、あるいは4～5歳頃に中止とします。

● **解熱剤は使ってもいいの？** 「解熱剤を使っても使わなくても、熱性痙攣がおきる確率は変わらない」という結果が出ています。解熱剤を使っても、熱性痙攣の予防にはなりません。

● **日常生活での注意は？** 典型的な熱性痙攣では、日頃の生活での制限や注意は何もありません。薬を使って熱性痙攣を積極的に予防しようとしているのは、世界中で日本だけなのです。その理由は「熱性痙攣は数分で止まり、成長とともにおこさなくなる。痙攣の回数が多くても、そのために脳に障害をおこしたり、てんかんになることはない」という考えに基づくものです。今までの痙攣を振り返ってみて、熱がなかったり、部分的な痙攣（左右で非対称の痙攣）が見られたり、持続時間が長かったり、何度も繰り返しているような場合には、熱性痙攣以外の病気が、隠れている可能性がありますので詳しい検査が必要になります。

スタッフ紹介


清水 可奈（しみず かな）

【職種】事務員

【自己紹介】古川町上気多に家族6人で住んでいます。毎日、ヤンチャな二歳の子も家の世話を追われています。仕事と子育て、両立は大変ですが、充実した日々を送っております。

【趣味】子どもと家の近くを散歩するのが好きで、この辺りは自然が豊かで気持ちがいいです。

【職場で心がけていること】笑顔と気配りを忘れず、患者様に気軽に声をかけてあげたいと思います。



## 江尻内科循環器科クリニック



飛騨市古川町上気多631-1  
 Tel 0577-74-0041 Fax 0577-74-0057  
 診療時間 (月～土) 午前8:30～12:00 午後3:30～6:30  
 水曜午後休診、土曜午後は1:30～4:00  
<http://www.ejiri-clinic.info>